

深海魚ミズウオの鰭の不思議

久保田 正・佐藤 武

深海魚のミズウオの鰭の形状は、前報（本誌第 86 号）で述べたように、他の魚類には見られない形態学的特徴があります。特に背鰭や尾鰭の形状さらに背鰭や尻鰭の軟条数に変異幅が大きいことなどです。本報では鰭の特徴について不思議と題して紹介します。

三保の海岸に打ち上がった体長約 60 ～ 130cm の本種の背鰭の形状は、大別すると 2 つのタイプがあります。1 つは、Gibbs (1960) が、述べているように軟条の第 4 ～ 6 番目が伸長しているタイプ（図 1）、もう 1 つは、伸びていないタイプです（図 2）。さらに特徴的なのは尾鰭上葉の先端が糸状に伸びている個体が、少数ですが、採集されます（図 3）。また Lowe (1833) が新種として発表した模式標本の図では背鰭は半円形で上記の后者のタイプに相当しています（図 4）。三保の海岸に打ち上がる個体は、前者のタイプが多く採集されます。

次に、背鰭や尻鰭の軟条数は、変異幅が大きくそれぞれ順に 29 ～ 41（平均 36.6）そして 11 ～ 18（平均 15.6）です。また腹鰭や胸鰭のそれは変異幅が小さく、それぞれ順に 8 ～ 10（平均 9.0）そして 13 ～ 15（平均 13.8）です。

このように本種の鰭の形状と軟条数に変異があり、他の深海魚には見られない特徴です。かつて世界中の魚類学者が、次々と本種の仲間を新種として発表したため混乱が生じていました。このような状況にある中で米国の魚類学者である Gibbs (1960) が、本科に属する種類を精査して 2 種類に整理するまでは、太平洋産のミズウオ類に限ってみても 20 種以上も知られていました。

ついでに述べると、本種の筋肉中の水分量は、クラゲ類とほぼ同じ位で約 94% を占めていて乾燥すると骨と皮だけになり、食用にはならない大型の魚類です。また、雑食性の本種は、海中に浮遊するプラスチック類も捕食するので海洋汚染の指標種として扱われています。



図 1 背鰭軟条（第 4 ～ 6 番目）が長いタイプ
1967 年 4 月 27 日採集、BL : 887mm



図 2 背鰭軟条の始部が短いタイプ（半円形状）
2001 年 4 月 28 日採集、BL : 830 mm



図 3 尾鰭上葉の先端が伸長している個体
1996 年 5 月 8 日採集、BL : 960mm



図 4 Lowe (1833) が新種とした模式標本の
個体（鰭は半円形状）
大西洋マデイラ沖産、TL : 約 1500mm